

— 私を去って他を利する政治を —

令和2年春号東京版

# 去私利他

【衆議院議員山本幸三季刊誌】

【発行】山本幸三事務所 〒100-8982  
千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館915号  
TEL (03) 3508-7085 FAX (03) 3501-9303  
mail yamamoto-office@seagreen.ocn.ne.jp  
H P http://www.yamamotokoza.com

自民党 Lib Dems  
Liberal Democratic Party of JAPAN

【討議資料】  
2020年(令和二年)3月発行



## 【謝辞全文】

(令和2年3月17日、衆議院より在職25年の議員表彰を受け、本会議にて謝辞を申し述べさせていただきました。)

この度、院議をもって永年在職議員表彰の栄誉を賜りましたこと、誠に身に余る光栄で心より感謝申し上げます。私を国政へと送り出し、その後も支え続けて頂いたふるさとの皆様、先輩議員や同僚議員の皆様、そして私の後援会・友人・事務所スタッフ・家族・親族全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、戦後北九州の門司で満州からの引揚者、特に父は2年間のシベリア抑留者でもありましたが、その七人兄弟の末っ子として生を受けました。貧乏ではありましたが、父母や兄姉達の愛情だけは、溢れんばかりに受けて育ちました。小学生の頃、普及し始めたテレビで、池田勇人首相が「所得倍増論」を引っさげて論陣を張っている姿を観て、政治家を志すようになりました。地盤・看板・鞆もなく、徒手空拳で選挙に臨み苦勞を重ねながら今日に至ることが出来ましたこと、誠に感無量であります。

私は、大蔵省の役人時代の若い頃から、金融政策に強い関心を抱き、あらゆる関連文献を読み漁り、その結果、当時の日銀の金融政策とその根幹の「日銀理論」が誤っているという確信に至りました。

1993年に初当選を果たしてから、一貫して「この日銀理論がデフレの元凶である。」と批判し続け、歴代日銀総裁との間で激しい論戦を重ねてきました。時に1時間半から2時間に渉る質疑を繰り返したのです。この主張は、当時の自民党主流派の考え方に反するものであり、自民党内にあっては奇人・変人・異端者として扱われたものでした。転機が訪れたのは、2011年3月11日、あの東日本大震災の時でした。未曾有の大災害を前にして、私は「このままでは、日本が消えてしまう。今こそ行動しなければ。」という強い危機感と焦燥感に駆られ、発災6日後の3月17日に「今こそ20兆円規模の日銀国債引受による救助・復興支援を！」と題したアピール文を書き上げ、全国会議員に配布して回りました。その後も、毎週のようにアピール文を全国会議員に配布し続け、計7回に及びました。

最終的に私の提案は当時の民主党政権に却下されましたが、「ここで政治の流れを変えなければ本当に日本は死んでしまう。」との強い思いから、デフレ克服を目指す議員連盟を立ち上げ、当時野にあった安倍晋三先生に会長になって頂きました。その議連で、浜田宏一先生や岩田規久男先生を講師として招き、勉強を重ねた結果生まれたのが、今日のアベノミクスであります。2012年暮の総選挙で安倍政権が誕生しこの政策が実践されることとなりますが、ここに至るまでに、実に20年の歳月を要したのであります。アベノミクスは当初見事な成果を挙げましたが、消費税引上げという真逆の方向の政策を採用せざる得なくなったことによって頓挫し、今日に至っています。

加えて、本年初頭から新型コロナウイルスという新たな逆風が吹き荒れるようになり、日本経済は、再びデフレに逆戻りしかねない岐路に立たされています。今こそ、あのアベノミクスの原点を思い起こし、大胆かつ積極果敢な財政・金融政策を断行することが必要ではないかと考えています。

結びに、本日の永年表彰を改めて道標とし、私の座右の銘である自分を捨てて他に尽くすという意味の「去私利他」の精神を持って真摯に職責を果たして参ることをお誓いし、御礼のご挨拶と致します。

こちらからビデオでもご覧頂けます。↗



最新情報は  
こちらをチェック！ 山本幸三公式facebookページ  
<https://www.facebook.com/yamamotokozaogiin>

